



学内広報



2003. 1. 8
東京大学広報委員会



未年の羊

ヒツジ（セント・クロイ）

セント・クロイは米国セント・クロイ島原産で、1990年ユタ州立大学から提供された受精卵をサフォーク種に移植、雌雄各一頭を生産、現在70頭まで増殖した。
(大学院農学生命科学研究科附属牧場)

目次

特別記事	2
法人化をめぐる動向について	
一般ニュース	3
小柴昌俊名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念祝賀会行われる、今年の定年退官教官数、入試事務室の設置、平成15年度大学入試センター試験の本学割当数決まる、学生のアルバイト及びアパート・下宿等の紹介状況、平成14年度外国人学生数	
部局ニュース	18
平成14年度工学系留学報告会開催される、理学系研究科・理学部 箱根見学旅行、UTフォーラム2002「東アジアにおける公共知の創出」が開かれる、医科学研究所で慰霊祭行われる、生産技術研究所で平成14年度外国人研究者・留学生との懇談会が開	

かれる	
キャンパスニュース	21
平成14年11月1日現在学生数	
掲示板	23
小柴昌俊名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念学術講演会の開催、第11回総合研究博物館新規収蔵品展示、21世紀の地球環境を考えるサマーワークショップYES2003のお知らせ、教養学部で第97回オルガン演奏会の開催、Web of Scienceサービス拡充について	
託報（上飯坂實、新納文雄、稲葉三千男名誉教授）	25
事務連絡（人事異動教官、事務官）	28
広報委員会	29
淡青評論「科学技術立国の学術ジャーナル」	30

≡ 特別記事 ≡

法人化をめぐる動向について

総長 佐々木毅

法人化は東京大学のメンバーに共通の目下最大の関心事であり、特に、誤った事実認識に基づく誤解やそれに伴う不安や混乱はこの際是非とも回避されなければならない。これまでも法人化をめぐる学内の動きについては随時「学内広報」に関連の記事が掲載されてきたが、さまざまな報道がなされているという現実を鑑み、今後、この場を借りて学内に対して適宜情報の提供をしようにしたい。

1 学外の状況

周知のように、国立大学を法人化するための法律は未だに成立していないし、国会にもまだ提出されていない。現在のところ、法案そのものについては文部科学省が内閣法制局や総務省などとすり合わせ中であり、1月中には法案の内容が固まり、2月末に閣議決定に至るとというのが文部科学省の見通しのようである。その前に恐らく国立大学学長会議などが開催され、法案に対する説明が行われるものと予想される。そしてこの法案は予算関連法案でないため、通常国会の後半で審議されることになるが、今年は4月に統一地方選挙が行われるため、早くも審議が始まるのはゴールデンウィーク以後になる。勿論、政局の新たな展開などによっては当初の目論みが影響を受けることは避けられない。そして、法案の内容と行方に注意を払うのが、今年前半の大きなテーマである。

法人化をめぐる諸問題との具体的な取組みの中心になっているのが、国立大学法人化特別委員会（以下、法人化特委と呼ぶ）である。この委員会では法案の検討のみならず、今後の人事制度や財務会計制度について文部科学省との間で意見交換と今後の諸案件の具体的な取り扱いが審議されている。また、将来の国立大学法人の存立と不可分の関係に立つ中期目標・計画の実際の内容についてもこの法人化特委を中心に意見交換が行われ、昨年末に凡そのフォーマットが示された。そこでの審議結果は直ちに各大学に伝えられ、そこでの検討の材料にされている。本学においても学部長会議や研究所長会議等においてこの委員会の動きを速やかに伝え、後で述べるような具体的な学内での検討につなげている。法案の内容の検討はこの法人化特委の重要な任務であるが、同時に非公務員型の採用に伴う人事制度の大きな変更や財務会計制度の新たな設計など、その他にも膨大な課題のあることがそこで明らかになっている。授業料の決定といった重大な問題も一定の範囲で各大学の裁量に属する事項になることが確認されている。

最終報告（新しい「国立大学法人」像について H14. 3. 26）において非公務員型が採用されたことによって、一方でこれまでの公務員法制から民間型労働法制への移行に伴う多くの作業が必要になり、予想されて

いなかったようなコストの増加が心配されるとともに、他方で、法人自身が自ら設計しなければならない課題が広がることになった。従って、法案によって決まる部分と法人として自ら決定しなければならない部分とを区別して考える必要がある。法人化そのものもさることながら、法人の定めるルールも教職員の将来に影響を及ぼすことを認識しておく必要がある。

2 学内での検討状況

法人化についての学内の主たる検討の場はUT21会議であり、昨年、各部局長を含む三つの検討委員会（組織・運営機構、財務・会計、人事・業務・評価）を設けて論点の準備的検討を行い、9月末に中間的な報告がなされた。なお、これら三つの検討委員会の課題についてはそれぞれに対応する形で運営諮問会議を今年度3回開催し、学外からの意見も聴取している（その内容は、随時「学内広報」に掲載してきている）。その後、法人化に伴う具体的な問題の検討に取組むため法人化準備委員会を設置し、この中に総長・部局長の選考方法等、就業規則、資源配分の三つのワーキンググループを設置し、目下、副学長と総長補佐を中心に検討を行っており、ここで結論が出たものについてはUT21会議において議論していただくことを予定している。現に、今回選出される部局長の任期についてはここで基本方針を決定した。また、昨年末、法人化に伴う附置研究所・センターの取り扱いについて文部科学省の審議に対応するため本学の原案を作成する「附置研究所・センター等問題検討委員会」を設置した。

中期目標・計画については昨年の夏に各部局から具体的な提案を出していただいたが、その後、そのフォーマットが明らかになったことを踏まえつつ、総長補佐を中心に第1次草案を準備し、時期を見てその内容について各部局の意向を確認する作業を行うつもりである。現在までのところ中期目標・計画には全学的な事項が中心に盛り込まれるものと思われるが、各部局の意向を十分に踏まえた上で作成することは言うまでもない。また、中期目標・計画の作成と平成16年度概算要求との関係など、なお、整理しなければならない課題がある。

先にも述べたように、提出を求められる中期目標・計画は全学事項を中心とした比較的量の少ないものになると予想されている。しかしこれとは別に、それぞれの部局には具体的な中期目標・計画の準備が求められ、場合によっては中期目標・計画の添付資料といった形で将来提出を求められる可能性が高い。また、学内においてもそれぞれの部局が何を目標にし、どのような成果をあげたかを評価していく仕組みを作らなければならず、従って、各部局における中期目標・計画についての検討は今後も必要である。

今回の法人化に伴う制度の変更や見直しについては多くの意見が学内からも寄せられている。問題は何をどのような段階を踏んで実現していくかであり、最初の6年をどのように使うかについてこれから検討を進めていく必要がある。

≪ 一般ニュース ≫

小柴昌俊名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念祝賀会行われる

標記の祝賀会が、平成14年12月26日（木）17時から東京丸の内のパレスホテルにおいて開催され、各界から約550人が小柴名誉教授の快挙を祝うため参集した。

祝賀会は、ノーベル賞授賞式の模様を編集した映像が会場に流されたあと小柴名誉教授ご夫妻の入場で始まり、佐々木総長の挨拶に続いて、遠山敦子文部科学大臣、長倉三郎日本学士院長、有馬朗人参議院議員・元総長、菅原寛孝高エネルギー加速器研究機構長、昼馬輝夫浜松ホトニクス株式会社社長ら各界の来賓の方々から祝辞をいただいた。また花束贈呈には、小柴名誉教授がファンだとおっしゃっている「水戸黄門」出演中の由美かおるさんが駆けつけたが、小柴名誉教授も自ら用意された紫色の羽織に杖、印籠と「黄門様」の出で立ちを身にまとして由美さんを迎え、会場をおおいに沸かせた。最後に小柴名誉教授が挨拶に立ち、「日本の基礎科学のレベルについて、もっと自信をもってもらっていい。例えば神岡から4、5年のうちにノーベル賞がひとつ、さらに4、5年後にはもうひとつ出るのはないかと私は思っています。息の長い基礎科学研究をどうぞ可愛がって下さい。」と話され、盛会のうちに閉会した。



遠山敦子文部科学大臣による挨拶



由美かおるさんから花束を受け取った小柴夫妻

今年の定年退官教官数

「東京大学教官の定年に関する規則」により、平成15年3月31日をもって本学を去られる予定の教官は、教授51人、助教授5人、講師1人の計57人である（予定者の方々は次表のとおり）。

(平成15年1月8日現在)

部局	職名	氏名	担当講座・部門等
大・法	教授	柏木 昇	比較法政国際センター
大・医	〃	木村 哲	微生物学
〃	〃	鈴木 紀夫	放射線医学
〃	〃	波利井清紀	感覚・運動機能医学
大・工	〃	安藤 忠雄	建築計画学
〃	〃	稲田 紘	精密機械システム工学
〃	〃	太田 勝敏	都市計画
〃	〃	梶 昭次郎	航空宇宙工学
〃	〃	久保田弘敏	航空宇宙システム学
〃	〃	菅原 進一	建築構造学
〃	〃	立石 哲也	機械エネルギー工学
〃	〃	西村 吉雄	電気工学原論
〃	〃	藤嶋 昭	インテリジェント材料学
〃	〃	藤田 和男	地球エンジニアリング
〃	〃	堀池 靖浩	マテリアルプロセス
〃	〃	山脇 道夫	エネルギー量子工学
大・文	〃	池田 知久	中国思想文化学
〃	〃	坂梨 隆三	日本語日本文学
〃	〃	庄司 興吉	社会学
〃	〃	米重 文樹	スラヴ語スラヴ文学
大・理	〃	木村 賛	人類科学
〃	〃	小間 篤	無機・分析化学
〃	〃	長澤 信方	量子光学
〃	〃	守 隆夫	動物科学
〃	助教授	林 幹治	宇宙惑星科学
大・農	教授	有馬 孝禮	材料・住科学
〃	〃	太田 猛彦	地球生物環境学
〃	〃	大塚 治城	国際動物生産学
〃	〃	岡本 嗣男	生物システム工学
〃	〃	尾鍋 史彦	材料・住科学
〃	〃	上野川修一	食品科学
〃	〃	唐木 英明	比較動物医科学
〃	〃	森 敏	生物機能化学
大・済	〃	斎藤 静樹	会計・財務
〃	〃	中兼和津次	国際経済
大・養	〃	菊地 一雄	生命機能論
〃	〃	小林 啓二	物質設計学
〃	〃	高野穆一郎	自然体系学
〃	〃	塚本 明子	多元世界解析
〃	〃	林 利彦	生命機能論
〃	助教授	大勝 孝司	情報システム
大・薬	教授	今井 一洋	生物有機化学
創域	〃	内野倉國光	物性・光科学
〃	〃	藤野 正隆	環境システム学
医科	助教授	金井 芳之	ヒト疾患モデル研究センター
〃	〃	森 庸厚	感染・免疫

部局	職名	氏名	担当講座・部門等
医科	〃	余郷 嘉明	感染・免疫
生研	教授	小林 敏雄	情報・システム
〃	〃	吉識 晴夫	人間・社会
史料	〃	五野井隆史	特殊史料
分生	〃	高橋 秀夫	分子情報・制御
〃	講師	小磯 邦子	分子構造・創生
物性	教授	小谷 章雄	物性理論
〃	〃	三浦 登	極限環境物性
海洋	〃	木村 龍治	海洋物理学
生セ	〃	大森 俊雄	生物制御工学部門
先経	〃	児玉 文雄	先端経済工学研究センター

入試事務室の設置

平成15年度入学試験に関する事務を処理するため、1月1日(水)から3月31日(月)までの間、入試実施委員会のもとに、入試事務室が設置される。

入試事務室は、入試課長を室長に室長補佐及び室員若干名をもって構成される。

室員は、入試課職員のほか、総務部、経理部、施設部、学生部、研究協力部等から派遣される事務職員で、およそ3ヶ月にわたり、入学試験に関する業務にあたる。

平成15年度大学入試センター試験の本学割当数決まる

平成15年度大学入試センター試験の東京地区での割当数が、80,409人に決まり、このうち本学が分担する志願者数は11,120人に確定した。

なお、平成15年度は、都立高等学校1校・私立高等学校4校の計5校を借用して実施することになった。

各試験場ごとの割当数及び担当学部は、次のとおりである。

試験場名		志願者数	担当学部
1	東京大学本郷試験場	法学部	1,282 法学部
		経済学部	643 経済学部
		工学部	930 工学部
		小計	2,855
2	東京大学教養学部試験場	3,005	教養学部
3	都立白鷗高等学校試験場	720	薬学部
4	私立富士見丘高等学校試験場	1,120	医学部
5	私立海城高等学校試験場	1,305	文学部
6	私立共立女子高等学校試験場	1,080	理学部
7	私立開成高等学校試験場	1,035	農学部
合計		11,120	

学生のアルバイト及びアパート・下宿等の紹介状況

学生部厚生課では、本郷地区に在学している学部学生、大学院生、留学生及び研究生に対して、アルバイト及びアパート・下宿等の紹介を行っており、その状況は以下のとおりである。

◆アルバイトの紹介状況(平成13年度)

1. 紹介状況

区分	受付件数	求人数	応募者数	採用者数
家庭教師	152	157	172	96
塾講師	217	1,302	821	222
臨時アルバイト	342	2,023	822(57)	399(26)
合計	711	3,482	1,815(57)	717(26)

※()内は留学生で内数

2. 応募学生の採用内訳

区分	学部生	大学院生	研究生等
家庭教師	応募数	100	72
	採用数	50	46
塾講師	応募数	520	296
	採用数	144	76
臨時アルバイト	応募数	518	302
	採用数	255	143
合計	応募数	1,138	670
	採用数	449	265

3. 家庭教師依頼先の学年別内訳

対象生徒学年	受付件数	応募者数	採用者数
小学3年以下	2	2	1
小学4年～小学6年	25	27	14
中学1年～中学3年	44	50	27
高校1年～高校3年	46	56	32
浪人生	19	23	14
大学生	11	11	7
社会人	5	3	1
合計	152	172	96

4. 臨時アルバイト・依頼業務分類

業 務 内 容	件 数
コンピュータ関係(インターネット、プログラム等)	133
事務全般	58
採点、添削、校正、問題(教材)作成	46
軽作業(物品の運搬、ポスティング等)	10
調査、研究、分析等	16
イベント、キャンペーン等スタッフ	12
業務関連スタッフ	13
飲食関係	29
翻訳	3
医療、介護関係	2
個人又は業務指導、講師等	8
受付・管理業務	3
販売関係	8
上記以外	1
合 計	342

◆アパート・下宿等の紹介状況(平成13年度)

1. 紹介状況

年 月	受付件数	紹介件数	成立件数
13年4月	52(25)	109(21)	12(1)
5月	59(20)	101(8)	11(0)
6月	31(9)	62(18)	9(1)
7月	38(13)	36(2)	15(5)
8月	45(18)	31(10)	12(5)
9月	26(13)	50(12)	12(5)
10月	44(18)	77(20)	9(4)
11月	42(23)	53(10)	7(2)
12月	29(14)	35(17)	8(1)
14年1月	99(31)	57(23)	21(4)
2月	112(29)	51(5)	29(4)
3月	134(50)	95(20)	31(11)
合 計	711(263)	757(166)	176(43)

※()内は留学生で内数

<アルバイトの応募について>

1. 学生部センター(安田講堂北側1階)内にアルバイト紹介の掲示板があります。「学生証」を持参(外国人留学生の方は、資格外活動許可書も持参)のうえ、希望するアルバイトの番号を学生生活掛(窓口3)に申し出てください。紹介状を発行いたします。
2. 紹介手続き後は求人先に直接連絡し、紹介状を持参のうえ面接(または選考試験)を受けてください。
3. 結果については採用・不採用にかかわらず、学生生活掛(窓口3)まで必ず報告してください。

(注意)

アルバイトに応募する時は、仕事内容を確認して、学業に支障をきたすことのないようにしてください。また、成立したアルバイトは責任をもって行ってください。

2. 紹介状況年度別推移

年度	受付件数	紹介件数	成立件数
8	1,118(401)	809(97)	198(21)
9	1,047(324)	911(134)	188(32)
10	792(224)	911(134)	188(32)
11	823(259)	954(154)	208(34)
12	799(254)	921(157)	182(28)
13	711(263)	757(166)	176(43)

3. 成立物件の家賃別順位

順 位	金額(円)	件 数
1	20,000~30,000	44(9)
2	30,001~40,000	41(8)
3	60,001~70,000	25(8)
4	40,001~50,000	16(4)
5	70,001~80,000	14(3)
6	50,001~60,000	11(3)
6	20,000以下	11(5)
7	80,001~90,000	10(2)
8	90,001~100,000	3(0)
9	100,001以上	1(1)
合 計		176(43)

4. 紹介希望者別内訳

区 分	紹 介 件 数	成 立 件 数
学 部 学 生	326(23)	70(8)
大 学 院 生	362(98)	81(18)
研 究 生	33(26)	14(11)
上 記 以 外	36(19)	11(6)
合 計	757(166)	176(43)

5. 成立物件の間取り別順位

順 位	間取り、設備等	件 数
1	1～2部屋、台所	58(22)
2	1～2部屋、台所、バス、トイレ	54(13)
3	1～2部屋、台所、トイレ	35(2)
4	1部屋（他の設備は共同）	18(2)
5	ワンルームマンション形式	11(4)
合 計		176(43)

6. 成立物件の地区別順位

順 位	地区別	件 数
1	文京区	122(28)
2	北区	26(8)
3	足立区	8(1)
4	豊島区	7(0)
5	葛飾区	5(3)
5	台東区	5(2)
6	板橋区	1(1)
6	渋谷区	1(0)
6	練馬区	1(0)
合 計		176(43)

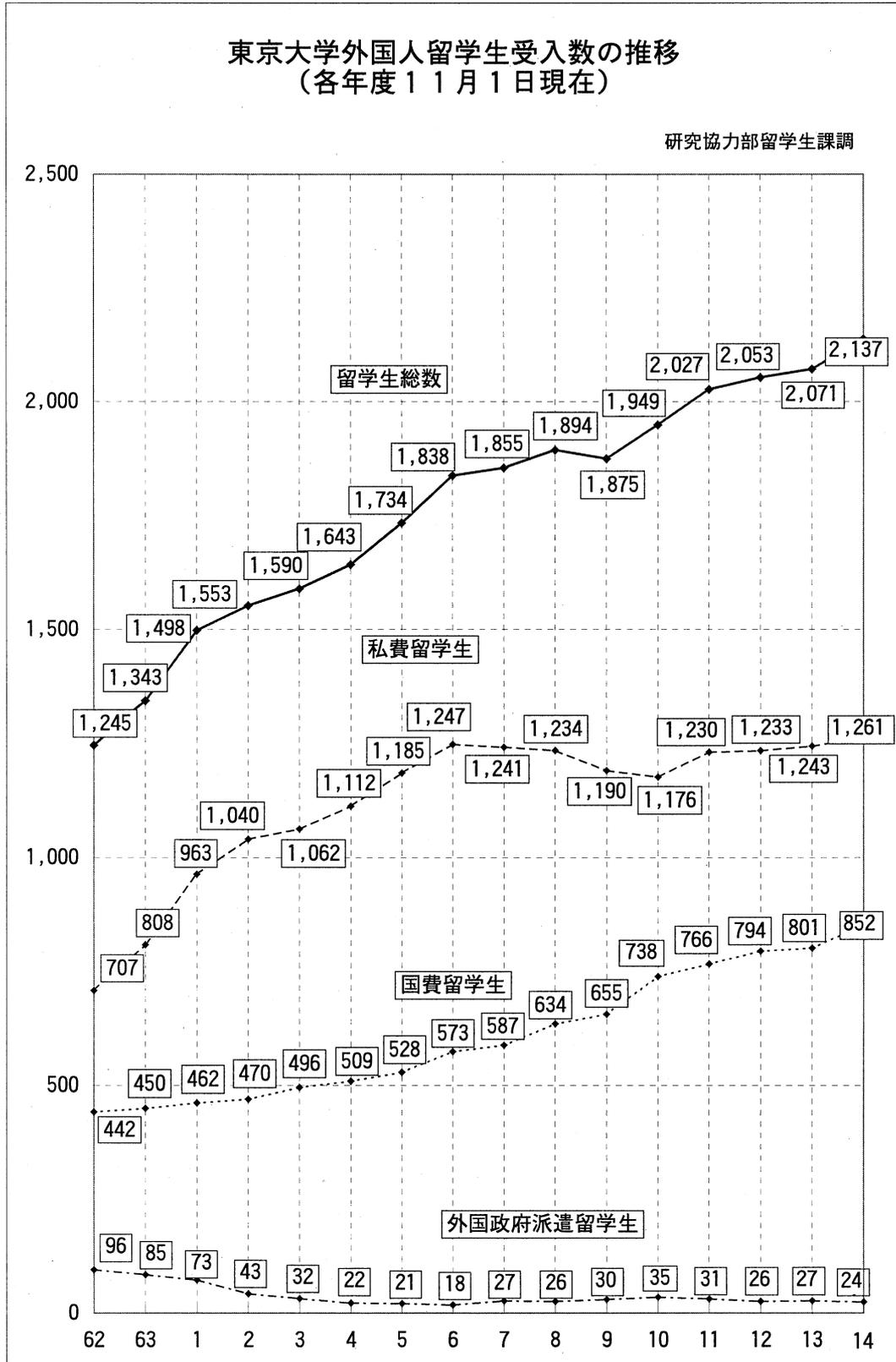
<アパート・下宿等の紹介について>

1. 学生部センター（安田講堂北側1階）内にアパート・下宿等紹介の掲示板があります。希望する物件がありましたら「学生証」を持参のうえ、学生生活掛（窓口3）に申し出てください。紹介状を発行いたします。
2. 紹介手続き後は家主に直接連絡し、紹介物件の下見をした上で、家主と話し合っ決めてください。
3. 結果については、成立・不成立にかかわらず、紹介後1週間以内に学生生活掛（窓口3）まで必ず報告してください。

平成14年度外国人学生数

平成14年度外国人学生数—国費外国人留学生数852人、私費外国人留学生数1,261人
外国政府派遣留学生数24人、在日外国人学生数106人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度11月1日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、本年11月1日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。



平成14年度 外国人学生数

平成14年11月01日現在

区 分	学 部				大 学 院								研究所等		合 計	
	学 生		研究生等		修士課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生		研究生		男	女
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
国 費(a)	85	35	0	0	122	46	238	105	127	83	8	3	0	0	580	272
	120		0		168		343		210		11		0		852	
外国政府派遣	インドネシア		0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	0		0		2		0		0		0		0		2	
外国政府派遣	シンガポール		4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	4		0		1		0		0		0		0		5	
外国政府派遣	タイ		3	3	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	7	4
	6		0		0		5		0		0		0		11	
外国政府派遣	マレーシア		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	2		0		0		0		0		0		0		2	
外国政府派遣	韓国		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	4		0		0		0		0		0		0		4	
	計(b)		12	4	0	0	3	0	4	1	0	0	0	0	19	5
	16		0		3		5		0		0		0		24	
私 費(c)	35	33	17	24	176	134	351	232	87	96	10	5	14	2	690	526
	68		41		310		583		183		15		16		1,216	
小 計(d)((a)+(b)+(c))	132	72	17	24	301	180	593	338	214	179	18	8	14	2	1,289	803
(在留資格「留学」の者)	204		41		481		931		393		26		16		2,092	
私 費(e)	3	3	0	0	5	3	6	8	10	4	1	0	2	0	27	18
(在留資格「留学」以外の者)	6		0		8		14		14		1		2		45	
外国人留学生合計 (f)	135	75	17	24	306	183	599	346	224	183	19	8	16	2	1,316	821
((d)+(e))	210		41		489		945		407		27		18		2,137	
在日外国人学生(g)	56	9	0	0	14	8	12	7	0	0	0	0	0	0	82	24
	65		0		22		19		0		0		0		106	
外国人学生	191	84	17	24	320	191	611	353	224	183	19	8	16	2	1,398	845
総計 (f + g)	275		41		511		964		407		27		18		2,243	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成14年11月01日現在

区 分	学 部				大 学 院						研究所等		小 計		合 計	
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 所 等 研 究 生			
	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費		
学部																
教養学部	71	48		33										71	81	152
法学部	4	3												4	3	7
医学部				1											1	1
工学部	31	21		2										31	23	54
文学部	2	2												2	2	4
理学部	5	3		1										5	4	9
農学部		1		2											3	3
経済学部	6	11		1										6	12	18
教育学部		1		1											2	2
薬学部	1													1		1
小 計	120	90		41										120	131	251
大学院																
人文社会系研究科					9	44	12	64	43	42		5		64	155	219
教育学研究科					3	16	5	19	11	17		2		19	54	73
法学政治学研究科					5	8	3	7	19	15				27	30	57
経済学研究科					4	6	6	6	7	1		1		17	14	31
総合文化研究科					15	31	21	83	30	22		5		66	141	207
理学系研究科					8	6	17	17	8	6		2		33	31	64
工学系研究科					78	101	163	216	37	26	11			289	343	632
農学生命科学研究科					4	34	49	79	15	20				68	133	201
医学系研究科					3	14	19	77	14	33				36	124	160
薬学系研究科						4	13	6		3				13	13	26
数理科学研究科					4	4	7	3	3	1				14	8	22
新領域創成科学研究科					21	24	14	10	4	6		1		39	41	80
学際情報学府					1	10	1	3	3					5	13	18
情報理工学系研究科					13	19	13	12	16	5				42	36	78
小 計					168	321	343	602	210	197	11	16		732	1,136	1,868
研究所等																
医科学研究所														6	6	6
地震研究所														1	1	1
社会情報研究所														1	1	1
生産技術研究所														8	8	8
分子細胞生物学研究所																
物性研究所														1	1	1
海洋研究所														1	1	1

(注) ①外国政府派遣学生は、私費の欄に含む。

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成14年11月01日現在

区 分	学 部				大 学 院								研 究 所 等		小 計		合 計		
	学 生		研 究 生 等		修 士 課 程		博 士 課 程		外 国 人 研 究 生 等		大 学 院 研 究 生		研 究 生		国 費	私 費			
	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費	国 費	私 費					
先端科学技術研究センター																			
小 計																	18	18	
合 計	120	90		41	168	321	343	602		210	197		11	16		18	852	1,285	2,137

全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 人	B 日本人学生 人	C 外国人留学生 人	C / A 比 率	平成 13 年度 比 率
学部レベル	15,479	15,228	251	1.62 %	1.42 %
大学院レベル	12,427	10,541	1,886	15.18 %	15.34 %
計	27,906	25,769	2,137	7.66 %	7.46 %

※日本人学生欄には在日外国人（106人）を含む。

※研究所に所属する研究生は、大学院レベルを含む。

※比率欄の数は四捨五入。

(注) ①外国政府派遣学生は、私費の欄を含む。

国又は地域別外国人留学生数

平成14年11月01日現在

国名又は地域名	国 費					私 費					合 計					総 計		
	学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等					
	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	小 計	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	小 計	学 生	研 究 生 等	修 士		博 士	研 究 生 等
アジア																		
パキスタン			3	5		8			3	1	1	5			6	6	1	13
インド			2	2	3	7			2	3	1	6			4	5	4	13
ネパール			2	2	1	5			9	1		10			11	3	1	15
バングラデシュ	2		3	16	4	25	1		4	5	2	12	3		7	21	6	37
スリランカ	2			4		6			7	3	1	11	2		7	7	1	17
ミャンマー	1			3	1	5			1		1	2	1		1	3	2	7
タイ	6		23	35	11	75	6		8	31	6	51	12		31	66	17	126
マレーシア	7		7	6	1	21	2	1	2	2	3	10	9	1	9	8	4	31
シンガポール	11		6			17	4		4	2	1	11	15		10	2	1	28
インドネシア	15		11	10	4	40	2	2	7	19	2	32	17	2	18	29	6	72
フィリピン	2		4	5	6	17		1	5	1	1	8	2	1	9	6	7	25
中国(香港)	2		2		1	5			1	1		2	2		3	1	1	7
韓国	6		32	69	29	136	11	5	61	217	51	345	17	5	93	286	80	481
モンゴル	9		2	1	5	17	1		2			3	10		4	1	5	20
ベトナム	24		11	10		45	2		15	4		21	26		26	14		66
中国	2		7	70	49	128	57	12	136	213	100	518	59	12	143	283	149	646
カンボジア	1					1			2			2	1		2			3
ブータン									2			2			2			2
ラオス	2					2			1			1	2		1			3
台湾									2			2			2			2
小 計	92		115	238	115	560	88	22	306	556	201	1,173	180	22	421	794	316	1,733
中近東																		
イラン	3			6	1	10				7	2	9	3			13	3	19
トルコ	2		3	5	4	14	1		1	1	1	4	3		4	6	5	18
レバノン			1	2	1	4									1	2	1	4
イスラエル			2	1	2	5									2	1	2	5
サウジアラビア					1	1											1	1
オマーン			1			1									1			1
小 計	5		7	14	9	35	1		1	8	3	13	6		8	22	12	48
アフリカ																		
エジプト				9	2	11				4		4				13	2	15
チュニジア				1		1										1		1
アルジェリア				2		2										2		2
マダガスカル				1		1										1		1
ケニア				1		1			1			1			1	1		2
コンゴ民主共和国				1		1					1	1				1	1	2
ナイジェリア																		
モロッコ	1			1		2						1	1			1		2
セネガル			1			1									1			1
エチオピア										1		1				1		1
マリ										1		1				1		1
小 計	2		1	16	2	21			1	6	1	8	2		2	22	3	29

国又は地域別外国人留学生数

平成14年11月01日現在

国名 又は 地域名	国 費					私 費					合 計					総 計		
	学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等					
	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等			
オセアニア																		
オーストラリア	4		3	3	3	13		1				1	4	1	3	3	3	14
ニューゼaland	1		1	2	2	6		3		1		4	1	3	1	3	2	10
パプア・ニューギニア				1	1	1			2			2			2	1		3
小 計	5		4	6	5	20		4	2	1		7	5	4	6	7	5	27
北米																		
カナダ			2	4	6	12	1		1	2	1	5	1		3	6	7	17
アメリカ合衆国			1	8	10	19		6	2	4	12	24		6	3	12	22	43
小 計			3	12	16	31	1	6	3	6	13	29	1	6	6	18	29	60
中南米																		
メキシコ	1		2	1	1	5				2		2	1		2	3	1	7
エルサルバドル				1		1			1			1			2			2
コスタリカ				1		1									1			1
ブラジル			4	7	2	13				3	1	4			4	10	3	17
パラグアイ				1		1												1
ウルグアイ	1				1	2							1		1			2
アルゼンチン			1	3	2	6									1	3	2	6
チリ			2	2	1	5		1	1			2		1	3	2	1	7
ペルー			1	1	2	4				2		2			1	3	2	6
コロンビア			2	1		3			4			4			6	1		7
ジャマイカ				1		1										1		1
ドミニカ			1			1									1			1
小 計	2		13	19	9	43		1	5	8	1	15	2	1	18	27	10	58
ヨーロッパ																		
スウェーデン				1		1		2		3	1	6		2		4	1	7
ノルウェー			1		1	2					2	2			1		3	4
デンマーク				1		1											1	1
イギリス			1	1	7	9		1	1	3		5		1	2	4	7	14
ベルギー				1	3	4									1		3	4
ルクセンブルク				1		1									1			1
オランダ			1	2		3									1	2		3
ドイツ			1	8	6	15		1		2	3	6		1	1	10	9	21
フランス			11	4	10	25		3		1	1	5		3	11	5	11	30
スペイン			1	3	3	7									1	3	3	7
ポルトガル	1					1							1					1
イタリア			1	3	6	10				2		2			1	5	6	12
マルタ				1	1	2									1		1	2
キリシヤ					2	2				1		1			1		2	3
オーストリア				2	1	3										2	1	3
スイス					2	2		1			2	3		1			4	5
ポーランド				2	1	3										2	1	3
チェコ			1			1											1	1
ハンガリー	3			2	4	9							3		1	2	4	9
ユーゴスラビア								1				1			1			1

国又は地域別外国人留学生数

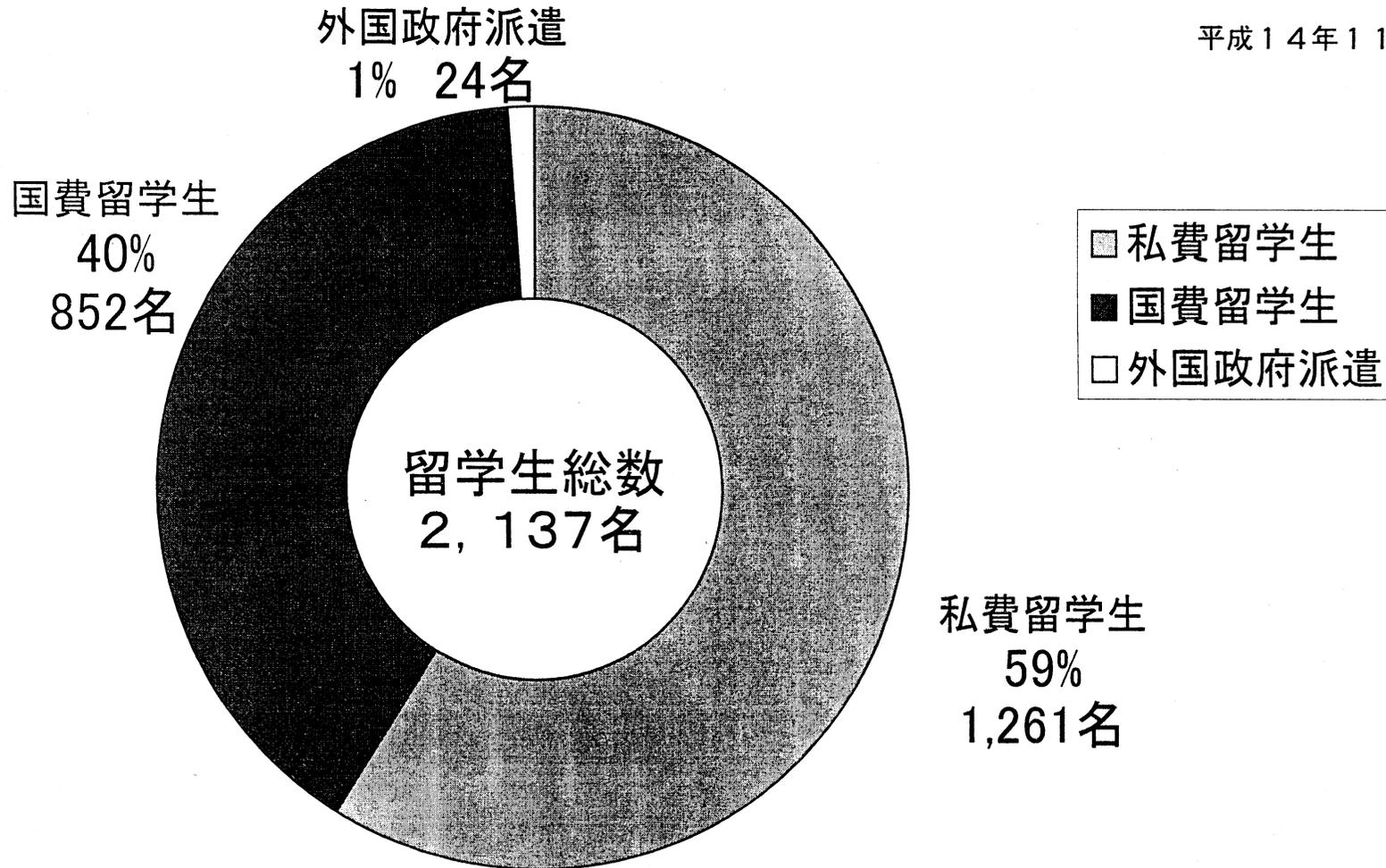
平成14年11月01日現在

国名 又は 地域名	国 費					私 費					合 計					総 計			
	学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等			学 部		大 学 院 等						
	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	小 計	学 生	研 究 生 等	修 士	博 士	研 究 生 等	小 計	学 生	研 究 生 等	修 士		博 士	研 究 生 等	
ルーマニア	3		2		2	7				1		1	3		2	1	2	8	
ブルガリア	4		1		2	7				1		1	4		1	1	2	8	
アルバニア					1	1				1		1				1	1	2	
ロシア	2		3	2	8	15				2	3	5	2		3	4	11	20	
スロバキア				1		1										1		1	
ウクライナ				3	1	4										3	1	4	
ウズベキスタン			1			1									1			1	
マケドニア				1	1	2										1	1	2	
ボスニア・ヘルツェゴビナ					1	1											1	1	
キルギス	1					1			1			1	1		1			2	
アルメニア					1	1											1	1	
小 計	14		25	38	65	142		8	3	17	12	40	14	8	28	55	77	182	
合 計	120		168	343	221	852		90	41	321	602	231	1,285	210	41	489	945	452	2,137

〔85か国・地域〕

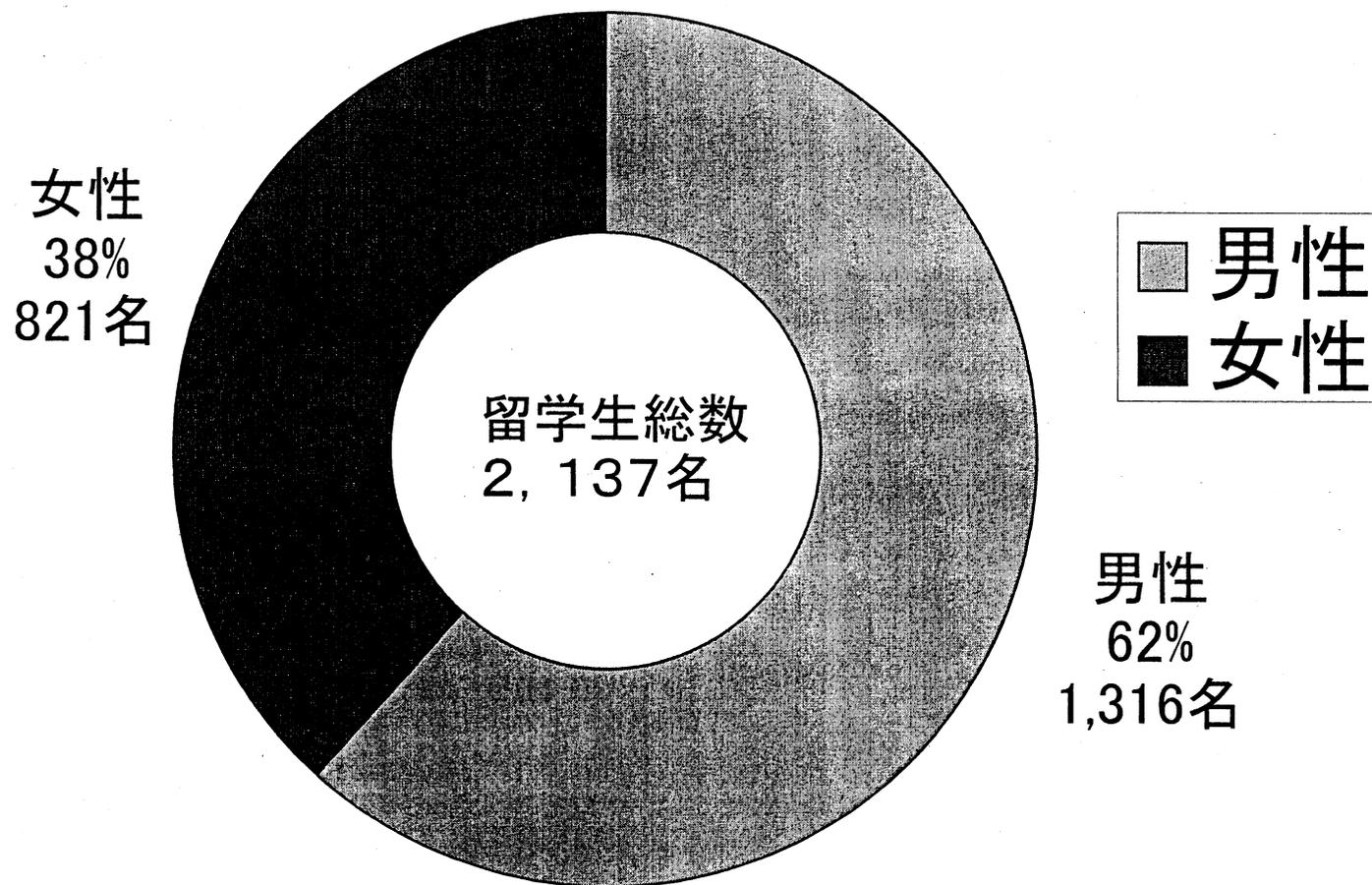
平成14年度外国人留学生種別内訳

平成14年11月1日現在



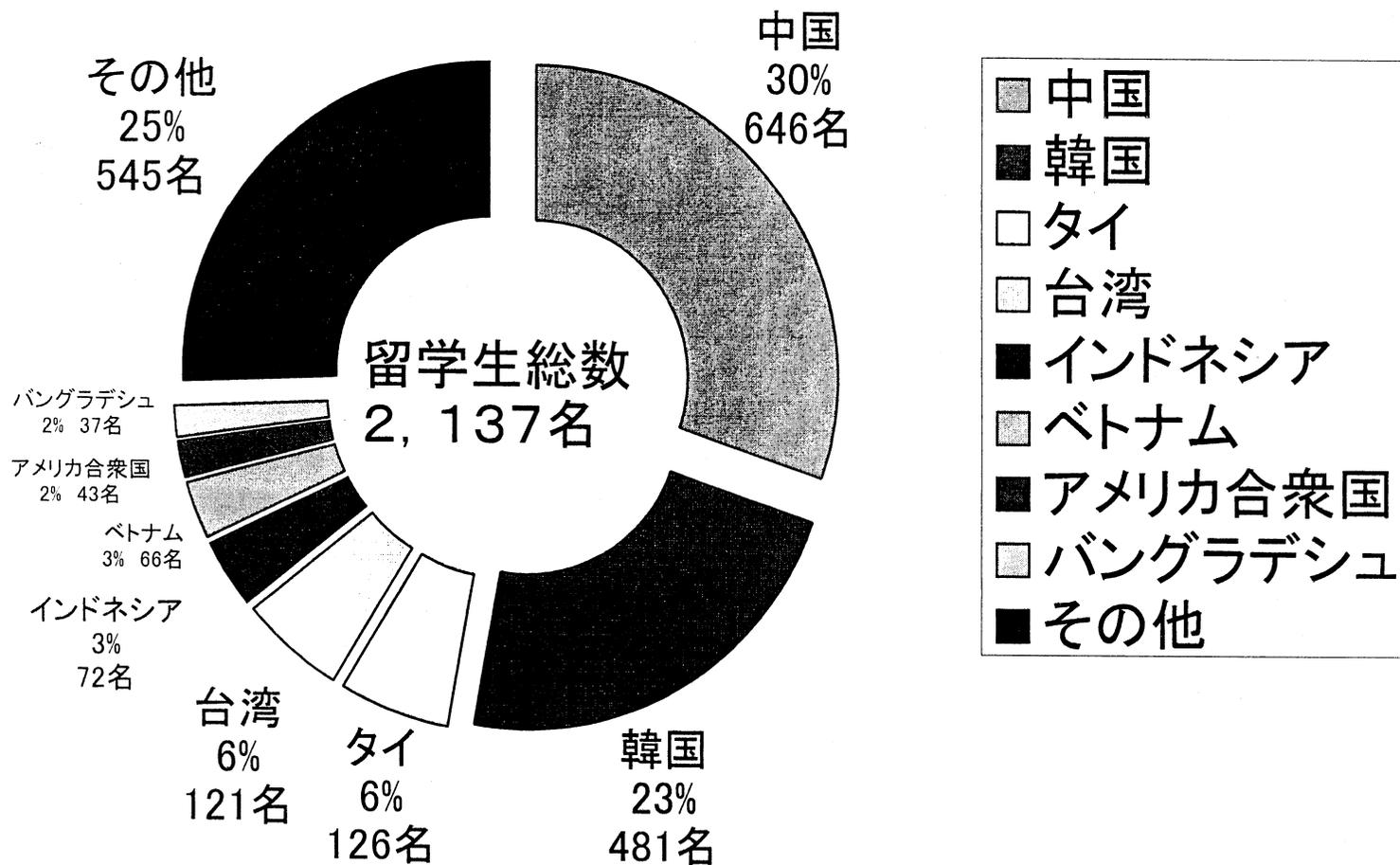
平成14年度外国人留学生男女別内訳

平成14年11月1日現在



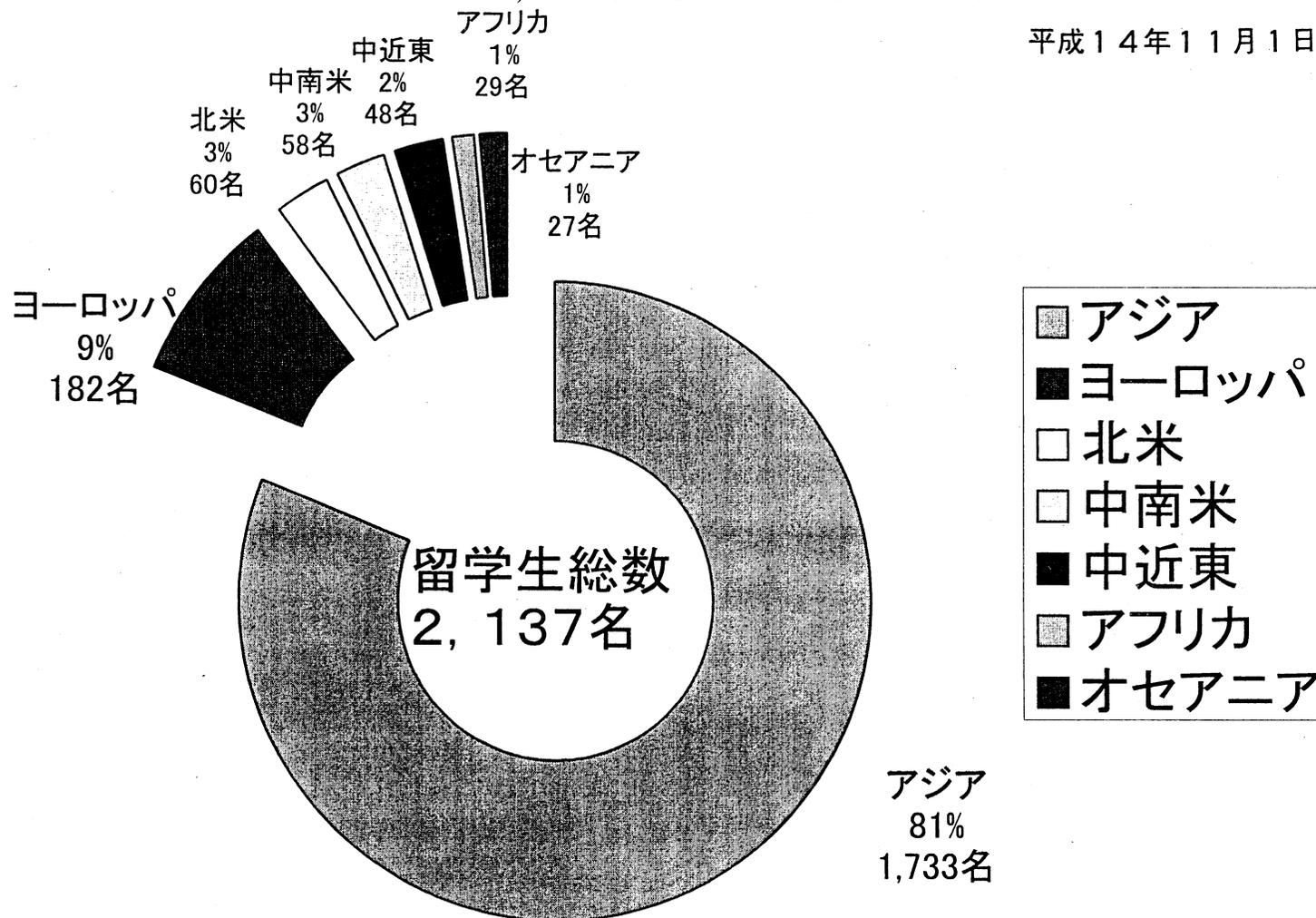
平成14年度外国人留学生国籍別内訳

平成14年11月1日現在



平成14年度外国人留学生地域別内訳

平成14年11月1日現在



≡ 部局ニュース ≡

平成14年度工学系留学報告会開催される

工学系研究科国際交流室とGlobal Ware Project推進室共催による留学報告会が、平成14年11月20日（水）午後4時から工学部11号館講堂で開催された。

初めに、国際交流室長の笠木伸英教授から国際交流室、そしてスタンフォード大学での留学経験が紹介された。続いて、システム量子工学専攻、石川顕一助教授から、ローザンヌ連邦工科大学（交換留学生）、アーヘン工科大学（Ph.D取得）での留学経験に加えて、“みんな一度は外国人になろう”（注：ドイツ学術交流会D A A DのHPから引用）とのメッセージが参加学生に投げかけられた。

続いて、4名の学生から、ウィーン工科大学（建築、西村恭史）、エコールサントラルパリ（社会基盤工学、天満知生）、ヘルシンキ工科大学（物理工学、最上康太）、ローザンヌ連邦工科大学（物理工学、野村政宏）での留学報告があり、それぞれ熱心な質疑応答があった。留学により、広い勉強ができる、日本でできない体験ができる、視野が広がる、優れた多くの友人ができる、自信ができるなど報告者全員が留学で得た様々な成果を紹介した。



報告会の様子

工学系研究科国際交流室では、活動のひとつとして、学生・院生の海外協定校派遣を積極的に進めており、平成14年度は約20名の学生を海外の協定校に派遣した。今後も広範な国際交流を支援していく予定である。

（大学院工学系研究科・工学部）

理学系研究科・理学部 箱根見学旅行

10月27日、28日に理学系研究科・理学部箱根見学旅行が実施された。昨年の山中湖、一昨年の日光に続き3回目の旅行となったが、今回は貸切バスによる初めての見学旅行で留学生とその家族及び客員研究員、そして留学生のチューターをしている日本人の大学院生とスタッフの計36名が参加した。バスは午前11時過ぎに東大を出発。バスガイドさんの英語による自己紹介に続き、後樂園や皇居など都内の観光名所の説明があり、日本人でもあまり知らないことを学ぶ良い機会となった。天気が素晴らしく良かったせいもあり箱根に近づくにつれ雪を頂いた富士山がくっきりと見え、みな写真を撮るのに夢中になった。途中、ススキの海原が一面に続く中をバスはゆっくりと走り、風を受けて黄金に輝く光景を眺めながらその美しさにため息が出た。

大涌谷の見学後、芦ノ湖に近い宿に到着し夕食後は留学生の企画・運営によるレクリエーションを行った。いろいろなゲームや韓国、中国からの学生による歌の披露、台湾やトルコの学生によるダンスなどで大いに盛り上がり、その後宿にある温泉でゆっくり寛ぐグループや夜遅くまで語り明かすグループもあった。翌日は朝食後、銘々芦ノ湖の周辺を散歩し、芦ノ湖畔にある箱根園で自由行動。鋸山のロープウェイで山の上まで上ると眼下に芦ノ湖、そして遠く海岸線を見ることが出来、強風で吹き飛ばされそうになりながらも景色を楽しむことが出来た。遊覧船で湖を一周する学生や湖畔をハイキングする参加者もいて、それぞれが日常生活から離れた自然とのひと時を満喫したようである。

帰途、箱根湯本駅のすぐそばにある本田美術館に立ち寄り、美術館の人の詳しい説明を聞きながら箱根名物の



箱根見学旅行集合写真

見事な寄木細工の工芸品を鑑賞。留学生からは途切れることなく質問が上がり、一階の土産物コーナーでは思いのお土産を購入し、みな満足そうであった。日本に留学し、東大で日々研究に明け暮れる留学生にとって、異なる研究室に所属している他国からの学生や日本人学生と語り合い、また自然の中でゆったりとした時間を共に過ごすことが出来たのがこの旅行での何よりの収穫であった。参加された家族や配偶者の方たちにとっても良い思い出となったようである。

(大学院理学系研究科・理学部 国際交流室)

UTフォーラム2002「東アジアにおける公共知の創出」が開かれる

去る12月14日(土)、15日(日)の両日、駒場キャンパス数理科学研究棟大講義室にて、国際シンポジウム「東アジアにおける公共知の創出—過去・現在・未来」(“Co-generating Public Knowledge in East Asia: Past, Present and Future”)が開催された。このシンポジウムは、大学院総合文化研究科・教養学部を責任母体に、UTフォーラムの一環として企画・組織されたもので、COE国際哲学センターと東アジア四大学フォーラム(CCC)が共催団体に加わった。

会議は、佐々木毅総長、李仁浩韓国国際交流団体理事、金観涛香港中文大学中国文化研究所研究員の3名の基調報告に始まり、「東アジア公共知をく省みる」「東アジア公共知のく現在」「東アジア公共知のく将来」の3セッションに分かれて、2日間の議事が進められた。主なトピックになったのは以下のような諸点である。

- (1) 公共知の形成と実践—公共空間とその知はどのように形成されどんな実践を生むか。
- (2) 公共知の普遍性と複数性—公共知はどんな文明・世界を志向する/したか。
- (3) く大学くのあり方・役割とその責任—公共性を担う学知とは何か。



佐々木毅総長



シンポジウムの様子

韓国・中国・香港・アメリカ・オーストラリア・日本から集まった30名ほどの専門家・知識人が、「公共知」というやや耳慣れない、しかし21世紀の大学にとって重要な課題について、様々な角度から討論する機会をもてたことは貴重な経験だった。また、会場には2日間でのべ300名近い参加者があり、英語のみならず、韓国語・中国語の同時通訳体制と相まって、大学からの知的発信という役割を十分果たしたと言える。2日目午後の総合討論では、「公共知」や「東アジア」といった基本的概念について、また知の新たな組み替えの可能性について、活発な意見交換があった。結果としてまだまだ論議しつくされない点も多々あったが、それらは今後の課題として残されるだろう。

なお、本シンポジウムの論文集と討論の概略は、日・英両国語版で東大出版会から来年中に出版される予定である。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

医科学研究所で慰霊祭行われる

医科学研究所では、同附属病院で亡くなられ、病理解剖させていただいた方々の御霊をお慰めするために、10月10日(木)午後1時30分から医科学研究所慰霊祭を挙行した。式は、参列者全員による黙禱に始まり、献体者





慰霊祭の様子



浦企画運営室長と外国人研究者たち

御尊名の奉読の後、新井所長が、「御霊に捧げることば」を述べた。続いて、ご遺族及び医科学研究所教職員が献花を行い、最後に、浅野病院長からご遺族に対して感謝のことばがあり、2時過ぎ滞りなく終了した。

(医科学研究所)

生産技術研究所で平成14年度外国人研究者・留学生との懇談会が開かれる

恒例の外国人研究者・留学生との懇談会が、平成14年12月5日(木)午後6時から、東京都目黒区のこまばエミナースにおいて開催された。この催しは、生産技術研究所の外国人研究者・留学生及び教職員の相互理解と文化交流を深めることを目的として、昭和59年から毎年開かれている。

今回は、大島資生助教授(留学生センター長代理)を迎え、27ヵ国からの外国人研究者・留学生及びその家族と本研究所教職員合わせて164名が参加した。

須田義大教授の司会進行で、西尾茂文所長、大島助教授の挨拶の後、インドの民族衣装に身を包んだ浦環教授(企画運営室長)が乾杯の発声を行い、歓談に移った。

和やかで国際色豊かな雰囲気の中、会が進み、アトラクションは大学院生などによるカルテットの室内楽演奏で始まった。参加者が優雅なクラシック音楽に魅了された後は、6ヵ国(ネパール、フィリピン、レバノン、ハンガリー、ケニア、ペルー)の外国人留学生代表による出身国の文化・習慣等にちなんだクイズが出題され、同時にそれぞれの国を紹介するスピーチが行われた。参加者全員が難問に頭をひねりながらYES又はNOで回答した結果、全問正解者は2名となり、賞品が手渡された。最後は、全員の集合写真を撮り、名残惜しい雰囲気の中に午後8時に散会した。



大学院生などによる室内楽演奏

(生産技術研究所)

平成14年11月1日現在学生数

—学部学生15,253人、大学院学生11,748人、研究生等912人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の学生数を調査し「学内広報」に掲載している。本年11月1日現在の学生数は次のとおりである。

平成14年11月1日現在 学部学生・研究生・聴講生数調

種別 入進学 年度別 性別 学部・課程別	在 籍 者													在籍者のうち、外国人学生 及び休学者 (再掲)						研 究 生			研究生のうち 外国人 (再掲)			聴 講 生		
	平成14年度		平成13年度		平成12年度 (以前)		平成11年度		平成10年度 以前		小 計		合 計	外国人学生			休 学 者			研 究 生			研 究 生 の うち 外 国 人 (再 掲)			聴 講 生		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
前期課程・教養学部	2,685	626	2,707	591	397	27	-	-	-	-	5,789	1,244	7,033	107	40	147	36	5	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-
後 法学部	475	131	501	104	378	61	-	-	-	-	1,354	296	1,650	10	5	15	17	7	24	-	-	-	-	-	-	22	0	22
医 医学科	87	16	83	21	83	18	83	22	19	3	355	80	435	0	0	0	6	1	7	29	17	46	0	0	0	-	-	-
健康科学・看護学科	28	17	23	18	7	2	-	-	-	-	58	37	95	1	0	1	1	0	1	17	24	41	0	1	1	-	-	-
工学部	838	70	877	63	159	7	-	-	-	-	1,874	140	2,014	52	10	62	24	1	25	16	5	21	2	0	2	16	2	18
期 文学部	247	136	268	111	152	49	-	-	-	-	667	296	963	5	3	8	27	10	37	2	10	12	0	0	0	-	-	-
理学部	253	39	300	29	52	4	-	-	-	-	605	72	677	6	2	8	12	0	12	0	1	1	0	1	1	8	3	11
課 農学部	197	64	220	66	33	1	-	-	-	-	450	131	581	0	1	1	6	2	8	18	9	27	1	0	1	1	0	1
経済学部	19	12	17	15	21	11	21	7	1	0	79	45	124	0	0	0	0	1	1	2	0	2	0	0	0	-	-	-
教養学部	317	53	306	49	103	13	-	-	-	-	726	115	841	7	11	18	15	2	17	-	-	-	-	-	-	4	0	4
程 教養学部	137	53	136	50	53	22	-	-	-	-	326	125	451	3	8	11	10	5	15	3	11	14	0	0	0	8	4	12
教育学部	71	30	52	38	17	10	-	-	-	-	140	78	218	1	2	3	5	2	7	6	5	11	0	1	1	-	-	-
薬学部	58	29	54	27	2	1	-	-	-	-	114	57	171	0	0	0	1	1	2	4	1	5	0	0	0	1	0	1
小 計	2,727	650	2,837	591	1,060	199	104	29	20	3	6,748	1,472	8,220	85	42	127	124	32	156	97	83	180	3	3	6	60	9	69
合 計	5,412	1,276	5,544	1,182	1,457	226	104	29	20	3	12,537	2,716	15,253	192	82	274	160	37	197	97	83	180	3	3	6	60	9	69

備 考) 1. 農学部の上段は獣医学課程を除く各課程の合計数を、下段は獣医学課程の数を示す。

2. 平成12年度(以前)の欄については、医学部医学科・農学部獣医学課程は平成12年度入学者のみ、他の学部学科は平成12年度以前の入学者数を示す。

平成14年11月1日現在 大学院学生・研究生・外国人研究生数調

研究科等名	種別 課程別 入進学年度 性別	在籍者																		在籍者のうち 外国人学生(再掲)				在籍者のうち 休学者(再掲)				大学院 外国人 研究生			大学院 研究生			特別 研究生							
		修士課程									博士課程									修士課程		博士後期課程		計			計			計											
		14年度		13年度		12年度以前		小計		計	14年度		13年度		12年度		11(5)年度以前		小計		計	計	計	修士課程		博士後期課程		計			計			計							
		男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人文社会系		103	67	95	69	61	31	259	167	426	69	39	71	42	65	49	125	102	330	232	562	988	22	31	30	48	131	14	6	78	61	159	37	46	83	9	11	20	0	0	0
教育学		25	27	24	25	6	5	55	57	112	19	17	11	23	20	11	26	34	76	85	161	273	4	15	10	14	43	2	2	13	26	43	6	22	28	5	8	13	0	0	0
法学政治学		56	23	48	22	8	3	112	48	160	12	7	15	7	12	4	18	10	57	28	85	245	10	4	6	4	24	4	3	4	7	18	17	17	34	-	-	-	-	-	-
経済学	区分	53	8	47	10	17	4	117	22	139	27	4	25	6	28	4	38	16	118	30	148	287	7	4	7	5	23	4	0	25	10	39	6	2	8	4	1	5	0	0	0
	一貫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	3	0	3	3	-	-	0	0	0	-	-	1	0	1	-	-	-	-	-	-			
総合文化		145	80	145	66	40	37	330	183	513	93	69	93	74	103	72	145	146	434	361	795	1,308	16	33	48	60	157	12	18	109	123	262	24	27	51	17	7	24	5	1	6
理学系		308	59	273	91	24	8	605	158	763	178	33	158	38	166	31	72	19	574	121	695	1,458	11	5	21	13	50	13	5	13	9	40	9	3	12	20	3	23	9	4	13
工学系		720	83	697	83	49	9	1,466	175	1,641	261	42	268	57	296	48	110	28	935	175	1,110	2,751	150	38	300	84	572	32	10	50	10	102	45	18	63	17	6	23	10	1	11
農学生命科学	農学	208	110	200	111	17	7	425	228	653	96	47	113	30	125	52	66	22	400	151	551	1,204	18	20	64	42	144	15	7	23	7	52	15	15	30	7	6	13	1	3	4
	獣医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	9	18	7	16	8	23	3	74	29	103	103	-	-	15	8	23	-	-	1	1	2	5	1	6	4	4	8	2	0	2
医学系	医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	131	66	141	60	118	46	109	44	551	236	787	787	-	-	37	47	84	-	-	17	16	33	26	12	38	3	1	4	31	6	37
	保健学	16	42	17	39	6	8	39	89	128	15	22	8	22	7	22	1	10	31	76	107	235	8	8	9	8	33	4	11	0	11	26	2	7	9	1	3	4	0	0	0
	医科学	12	12	13	5	2	0	27	17	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	3	0	-	-	3	1	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬学系		68	22	57	29	4	1	129	52	181	41	10	38	15	36	13	6	1	121	39	160	341	2	2	10	9	23	4	1	4	3	12	0	1	1	3	1	4	4	6	10
数理科学		40	3	38	2	6	1	84	6	90	27	2	19	0	22	2	12	0	80	4	84	174	5	3	8	2	18	1	0	4	0	5	4	0	4	19	1	20	1	2	3
新領域創成科学		258	89	292	85	18	7	568	181	749	90	22	92	26	-	-	-	-	182	48	230	979	34	13	20	6	73	10	4	3	2	19	5	5	10	7	3	10	3	1	4
情報理工学系		176	7	144	5	-	-	320	12	332	46	2	48	2	-	-	-	-	94	4	98	430	27	6	23	2	58	5	0	2	0	7	17	4	21	1	0	1	0	0	0
学際情報		33	16	31	18	6	8	70	42	112	15	11	-	-	-	-	-	-	15	11	26	138	3	9	3	1	16	5	3	0	2	10	2	1	3	0	0	0	0	0	0
合計		2,221	648	2,121	660	264	129	4,606	1,437	6,043	1,136	402	1,118	409	1,014	362	807	457	4,075	1,630	5,705	11,748	320	191	611	353	1,475	126	70	347	288	831	220	181	401	117	55	172	66	24	90

- 備考 1. 経済学研究科における5年一貫博士課程の平成5年度以前入学者については、博士後期課程欄の()内の入学年度の欄に示す。
 2. 農学生命科学研究科、医学系研究科の下段学生数は、平成10年度以前の入学者を示し、外数である。
 3. 大学院研究生、特別研究生欄の()内は、外国人を示し内数である。

≡ 掲示板 ≡

小柴昌俊名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念
学術講演会の開催

本学では、小柴昌俊名誉教授のノーベル物理学賞受賞を記念し、下記のとおり学術講演会を開催いたします。

記

日時：平成15年1月16日（木）

開場：13：00

開演：14：00～15：30

会場：東京大学大講堂（安田講堂）

挨拶：14：00～ 佐々木毅 東京大学総長

蓮實重彦 前東京大学総長

講演：14：15～ 小柴昌俊 東京大学名誉教授

14：55～ 戸塚洋二 高エネルギー加速器研究機構

素粒子原子核研究所物理第

三研究系教授

※本講演会は下記の会場においても聴講いただけます。

また、併せてインターネット配信も行います。

講演中継会場：法文1号館（25番教室）、法文2号館（31番教室）

SCS配信会場：工学部（11号館1階講堂）、農学部（7号館1階講義室）

教養学部（900番教室、13号館2・3階1323番教室）

インターネット配信URL：<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/announce/2003/01/koshiba.html>

参加申込み：当日会場にて受付（参加費無料）

問い合わせ：東京大学総務部総務課TEL03-3815-6363

主催：東京大学

第11回総合研究博物館新規収蔵品展示

「痕跡の考古学—遺物に残された痕跡から探る—」展

過去に起こった事象は、様々な痕跡として残されています。例えば地震の痕跡として断層や噴砂が残され、噴火の歴史が溶岩や火山灰の堆積として残されるように。

人類の歴史、特に文字記録の無い先史時代では、ほとんどの情報は遺構・遺物という痕跡でしか残されず、その多くは土の中に埋蔵された状態になっています。したがって、先史時代を主な研究対象にしている考古学では、発掘調査された遺構・遺物から、いかに多くの正確な情報を導き出すことができるかによって、成果の内容は大きく左右されます。

考古学は人類の残した痕跡を科学的に分析することから始まります。

遺構・遺物を詳細に観察すると、使用痕とか製作痕、また土器などの胎土中に残されている圧痕など様々な状態で見つけることができます。しかし、その痕跡を残し

た本体は、失われていて直接眼にすることができないことが多いのです。

展示では、遺構・遺物に残されている痕跡を観察・分析するための新たな方法として「痕跡の考古学」を紹介いたします。

「痕跡の考古学」は、痕跡を残したまま失われてしまった原体をレプリカとして観察や計測の可能な状態に復元し、それら进行分析することによって環境・季節、道具・技術などの詳細を明らかにすることを目的としています。このような分析は、まさに総合科学的な方法が必要であり、総合研究博物館という研究環境のもとで開発・発展が可能になった方法と言えましょう。

会 期：平成15年1月16日（木）～4月20日（日）土日祝日開館、月曜閉館。（但し1月18・19日はセンター試験のため、2月25・26日は入学試験のため臨時閉館します。）

開館時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）

会 場：総合研究博物館旧館 新規収蔵品展示コーナー

主 催：総合研究博物館

入 場 料：無料

ハローダイヤル：03-5777-8600

U R L：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

（総合研究博物館）

21世紀の地球環境を考えるサマーワーク
ショップYES2003のお知らせ

マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学、チャルマーズ大学、本学の間で、地球環境を維持しつつ人間活動の持続的発展をめざし国際協力を進めているAGSでは、下記の通り、サマーワークショップYES（Youth Encounter on Sustainability）2003をスイス・ブラウンバルトの山荘にて開催いたします。

Energy, Technology, Food and Water, Social Issuesの4つの観点から、話題提供、見学、討論、発表という手順で、持続性についての各自の考えを深め、共同提案書づくりを目指します。

昨年度は各セッションとも24カ国38名の学生と20名余の講師陣とで、ほぼ貸し切り状態の山荘で2週間の熱いディスカッションを繰り広げました。また水力発電施設や直接民主主義制度の自治体、畜産農家などの見学も行いました。使用言語は英語です。

参加資格は、学部生（4年生）および大学院生で、下記の1・2の各セッションとも4大学から約5名ずつと4か国以外の各国から約20名の計40名を予定しています。

本ワークショップの趣旨に賛同し、応募御希望の方は、申込書に400語以内の英文エッセイを添えて、下記までお申し込みください。なお参加者は一人あたり1,000USドル（航空運賃含む）の自己負担が必要です。応募者多数の場合は審査のうえ決定させていただきます。その際

に、指導教官またはそれに代わる方からの推薦状をいただく場合、また英語にて面接をする場合があります。

本学学生諸君の多数のご応募をお待ちしております。

日程：

セッション1：2003年7月12日(土)～26日(土)

セッション2：2003年8月9日(土)～23日(土)

日本発は、利用する便により開始日の1～3日前です。

場所：

スイス連邦、ブラウンバルト

申込締切：

2003年2月28日(セッション1, セッション2ともに)

詳細説明および申込書様式：

<http://www.global-sustainability.org>

申込先：環境学専攻 味埜教授(mino@k.u-tokyo.ac.jp)

教養学部で第97回オルガン演奏会の開催

小柴昌俊先生ノーベル賞受賞記念

ジェニファー・ベイト オルガン演奏会

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、世界的に著名なオルガニストであられるジェニファー・ベイトさんをイギリスからお招きし、バッハの魅力の数々をたっぷりとお楽しみいただきます。なお、この演奏会にひきつづいて、小柴昌俊名誉教授によるノーベル賞受賞記念講演(本郷からの中継映像)が行われますので、併せてご来聴ください。

入場は無料です。なお、直前の変更があるかもしれませんので、ホームページをご覧ください。

<http://www.platon.c.u-tokyo.ac.jp/900j.html>

日 時 1月16日(木)午後12時30分開演

場 所 教養学部900番教室

プログラム 《バッハ・冬にほとばしる光》

J・S・バッハ

協奏曲 ト長調 (BWV. 592)

前奏曲とフーガ (BWV. 536)

トリオ ハ短調 (BWV. 585)

「恵み深きイエスを迎えよ」

(BWV. 768)

「われ神より去らじ」(BWV. 658)

フーガ ト長調 (BWV. 577)

オルガン：ジェニファー・ベイト

(大学院総合文化研究科・教養学部)

Web of Scienceサービス拡充について

情報基盤センター図書館電子化部門では、12月2日(月)より学内ネットワークで提供している引用索引データベース「Web of Science」に1970年から1979年の遡及データを追加しました。これにより、1970年から最新の引用索引データが「Web of Science」で利用できるよう

になりました。

「Web of Science」は通常のキーワードによる文献検索に加え、引用文献による文献調査が可能なデータベースです。各々の論文について、被引用文献数や引用文献情報を簡単な操作で調べることができます。

さらにデータの充実した「Web of Science」を、研究・学習にどうぞご活用ください。

Web of Science：

<http://wos.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/wos/CIW.cgi>

[データベース範囲]

収録年：1970年～2002年

収録件数：約2,780万件(2002年12月現在)

データの更新頻度：毎週

収録内容：全分野にわたる主要な学術雑誌(約9,000誌)に掲載された論文の書誌情報と引用文献情報。

また、「Web of Science」をはじめとしたデータベースの利用に関する出張講習会も実施しています。ご希望の時間で研究室までお伺いしますので、ゼミや授業等どうぞご活用ください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/shuccho.html>

問合せ先

情報基盤センター学術情報リテラシー掛(内22649)

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp



≡ 計 報 ≡

上飯坂 實 名誉教授

本学名誉教授の上飯坂實先生は、去る7月28日午前8時に御逝去されました。享年76歳でした。告別式は8月3日江古田斎場にてしめやかに執り行われ、先生を偲んで本当に多数の方が参列されました。



先生は、昭和22年9月に東京帝国大学農学部林学科を卒業後直ちに同学大学院に入学し、昭和27年12月には岩手大学農学部講師に採用されました。昭和29年2月に同学助教授、昭和37年7月に宇都宮大学農学部教授に昇任、昭和42年5月に東京大学農学部教授に配置換となりました。以来18年余にわたって森林利用学講座を担当するとともに、昭和54年10月から2年間、森林風致計画学講座も兼任されました。この間森林土木学と森林利用学に関する研究と教育に精励し、多くの業績を残されました。

先生は、我が国における林道機械施工の黎明期を迎えるに先立ち、施工計画に関する基礎的研究を行って機械化施工計画の基礎を確立しました。「ブルドーザによる林道施工計画に関する研究」により農学博士の学位を授与されるとともに、その成果は山岳林における林道の施工機械化の契機あるいは指針を与えるものでした。引き続き林道の最適密度に関する研究を、また林業生産の根幹である伐出作業に関しても、その体系化に必要な重要な課題を数多く解明し、森林土木学並びに森林利用学の発展に貢献するところ極めて大なるものがありました。

学内においても、農学部学生委員会委員長、教務連絡委員会委員長等をつとめ学内行政に尽力されました。また学外にあっては新潟大学農学部、宇都宮大学農学部、静岡大学農学部、東京農工大学農学部及び東京農業大学農学部の非常勤講師を勤められた他、東京農工大学農学部教授をも併任されました。また東京大学退官後は東京大学名誉教授となられ、東京農業大学教授をつとめ、その後同大学の客員教授となりました。

研究・教育活動以外にも、日本林学会会長をはじめ森林利用研究会会長、第13期日本学術会議会員、日本学術会議林学研究連絡委員会委員長、同森林工学研究連絡委員会幹事など、学会の運営並びに我が国科学技術行政に多く参画し、国際的にも国際会議における論文発表、国際林業研究機関連合の評議員を勤めるなど、専門分野における国際交流に貢献されました。最近では、東京都森林審議会会長、(財)森と村の会副会長、大山林会理事等を歴任しています。

以上のように先生は、長年にわたって優れた研究業績をあげるとともに多くの人材を育成され、広く学界、教育界、産業界の発展に貢献されるなど、その功績には顕著なものがあります。

先生は、昨年創立100周年を迎えた森林利用学研究室の中核時期を支え、こんにちの森林利用学研究室の発展に尽くされました。先生のご功績とお人柄を偲び、謹んでここに
ご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院農学生命科学研究科森林利用学研究室)

新納 文雄 名誉教授

東京大学名誉教授（教養学部）
新納文雄先生は、2002年10月22日午後3時12分、ご逝去されました。享年79歳でした。ここに先生のご功績とお人柄を偲び、衷心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生は1923年1月19日神奈川県に生まれ、1945年9月東京帝国大学理学部を卒業されました。1947年8月に第一高等学校講師となり、学制切り替えにより、東京大学教養学部講師になっていますので、文字通り、一高最後の先生と申し上げてよろしいと思います。1967年11月教授に昇任され、1983年停年で退官された後も日本大学で教鞭をとられました。かくも長い間、いわゆる教養の数学教育にかかわっていらしたことから、先生の講義に触れた学生は本当に数多くいるわけです。私も大学入学してはじめてを受けた数学の授業が先生のものでした。御自分の姓、新納が正しく読めるか、とたずねられたことを覚えています。「にいろ」と読むのだ、 $216 = 6^3$ と覚えておけ、とのお話を今でも忘れません。その後学生として、後輩としておつきあい頂きましたが、先生が日本大学に移られ入れかわりに私は東京大学に戻ってまいりました。

先生の御専門は数学の関数解析学で、とくに正作用素



論です。有限次元空間で成り立つことが、無限次元線型位相空間までどのようなかたちで拡張されるか、を研究され、業績をあげました。とりわけバナッハ束状の正作用素の分解とスペクトルに関する結果は高く評価され、よく知られたものであります。また、教育・研究だけではなく、東京大学評議員として大学や学部の運営にかかわられるなど、大学への貢献は多面にわたっています。これらの業績により、1999年11月勲三等旭日中綬章を受章されました。

その飄々としたお人柄は、講義など聴いた学生からも愛されていましたが、後輩として思いだすのは、先生とテニスです。腰に下げたタオル、きっと昔は手拭いだったと思いますが、これがテニスをなさるときにも先生のトレードマークでした。学生時代の柔道部以来のことなのかもしれません。お人柄どおりのテニス・プレーヤーでしたとつけ加えておきましょう。

昨年、教養学部ベテラン会でおめにかかったのが最後の機会となってしまいました。お元気そうにお見受けしましたので訃報に接し、残念でなりません。先生の講義も、数学も、テニスも、ビールもただ思い出の中だけに生きております。

（大学院数理科学研究科）

稲葉三千男 名誉教授

本学名誉教授であり、新聞研究所長を務められた稲葉三千男先生は、去る9月8日午前11時48分に逝去されました。享年75歳でした。



稲葉先生は、昭和28年に東京大学文学部社会学科をご卒業後、東京大学大学院社会科学研究科社会学専門課程（B）新聞学に進学し、在学中の昭和33年4月、東京大学新聞研究所助手に任ぜられ、昭和37年4月、東京大学新聞研究所助教授に昇任、その後、昭和47年4月に教授に昇任されました。助教授への就任から、昭和62年3月停年による退官までの本学在職期間は25年におよび、その間、新聞研究所、および大学院社会科学研究科（後に社会学研究科）において、コミュニケーション理論、マス・コミュニケーション理論の講義を担当され、多くの後進を育成されました。

先生の研究業績は、コミュニケーション理論、マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム研究など、多方面にわたっています。コミュニケーション理論においては、戦後いち早く、マルクス主義の思想を理論構成に取り入れながら、独自の学風を打ち立て、学界に大きな影響を与えました。マス・コミュニケーション理論の領域では、流言、世論、宣伝、選挙など幅広い対象に対し、鋭利な分析を加えられ、とりわけ、マス・コミュニケーションの生産過程に関する諸論文は、現代社会にお

けるマス・コミュニケーション現象に内在する諸問題を鋭く摘出しています。ジャーナリズム研究の領域では、精力的な現代ジャーナリズム批判によって、学界のみならず、広く現場のジャーナリズム界に大きな影響を与えました。

東京大学を退官後、先生は平成2年1月、東京都東久留米市長に就任し、平成13年12月に職を辞すまでの11年間、東久留米駅周辺を中心とする都市基盤の整備、財政体質の改善と行政改革、最新のゴミ焼却炉の建設とゴミの減量・リサイクルなどの環境問題の改善、市民主導型と市政運営など、多くの業績を残されました。これらの業績により、ご逝去に際して正四位勲三等瑞宝章の榮に浴されました。

先生は、豪放に見えながら実は繊細でやさしいお人柄によって、学会のみならず、言論界からも広く尊敬を集めた先生でした。また、囲碁、将棋、漢詩など多様なご趣味をお持ちになり、研究の合間に楽しんでおられましたし、お若い頃は一滴も口にされなかったという、お酒もやがて大いにたしなまれるようになった頃、しばしばお付き合いさせていただき、該博な知識の一端をうかがわせていただいたのも、いまは懐かしい思い出になりました。

ここに謹んで、哀悼の意を表し、稲葉先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（社会情報研究所長：廣井脩）

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14. 12. 31	柴 田 洋 一	(辞 職) 退職	大学院医学系研究科教授
15. 1. 1	高 橋 孝 喜	(採 用) 大学院医学系研究科教授	
〃	尾 藤 晴 彦	(昇 任) 大学院医学系研究科助教授	京都大学大学院医学研究科講師
〃	大 滝 純 司	(転 任) 医学教育国際協力研究センター助教授	北海道大学医学部附属病院助教授
〃	高 橋 孝 喜	(併 任) 医学部附属病院輸血部長	大学院医学系研究科教授
〃	矢 富 裕	大学院医学系研究科助教授	山梨大学医学部助教授
14. 12. 16	御 厨 貴	先端科学技術研究センター教授	政策研究大学院大学大学院政策研究科教授

人 事 異 動 (事 務 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
14. 12. 16	大 熊 良 一	死 亡	総務部長
15. 1. 1	西 山 晋	総務部総務課長	文部科学省高等教育局私学部参事官付学校 法人調査官
〃	吉 井 一 雄	文部科学省大臣官房人事課専門官	総務部総務課長

(備 考)

平成14年12月16日付で、事務局長 梶野慎一、総務部長事務取扱を命ずる

≡ 広報委員会 ≡

『学内広報』掲載写真の公募

次の要領で、「学内広報」に掲載する写真とその内容の紹介文を、広く本学関係者から募集します。

- | | |
|--|--|
| <p>1. 内 容：東京大学に関するものなら内容は特に問いません。学内点描でも、一般の学内の人達になじみのうすい乗鞍や北海道などの各種施設の状況でも、観測船やスーパーカミオカンデなどの各種設備の概観でも、電子顕微鏡や高速度瞬間写真などによる珍しい現象でも、なんでも結構です。</p> <p>2. 形 式：特に問いません。</p> | <p>3. 説明文：500字程度の写真内容を説明する文章をつけ、所属・氏名を明記してください。</p> <p>4. 締 切：特に設けません。随時。</p> <p>5. 掲 載：原則として、表紙に掲載します。</p> <p>6. 送り先：〒113-8654 文京区本郷7-3-1
 東京大学 事務局総務課広報室
 03(5841)2031</p> |
|--|--|

投書欄「噴水」にご意見を!!

「学内広報」には、皆様から投書を寄せていただく欄として、「噴水」が設けられています。この欄への投書要領は、次のとおりです。

- 1 本学における教育・研究活動に関する建設的な意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 〒113-8654 文京区本郷7-3-1
 東京大学 事務局総務課広報室 03(5841)2031

科学技術立国の学術ジャーナル

小柴昌俊先生のノーベル賞受賞といううれしいニュースが入ってきた。昔、学部3年生の学生実験で放射線の課題の試問を受けに先生の部屋にこわごわ伺ったことや巨大なフォトマルチプライヤーを見せていただいたことを懐かしく思い出した。3年連続で日本人のノーベル賞受賞しかも物理と化学のダブル受賞ということで、いよいよ勢いがついてきたという感じがする。

科学技術立国をめざすということを標榜して、1995年科学技術基本法が制定された。そのもとで競争的資金によるプロジェクトが企画されるなど、基礎研究の重点的な支援が進んでいる。その結果日本の研究レベルが着実にあがって来たことを実感する。最近では研究成果を欧米の一流雑誌を通じて公表することも普通になった。ネイチャーやサイエンスといったトップジャーナルにも毎号のように日本人の研究論文が掲載されている。しかし、日本人の研究水準が国際水準になったのだと呑気に喜んでいてよいのかと疑問を感じることもある。

最近、インターネットの普及と共に学術論文の電子化が急速に進んでいる。この流れの中で学術雑誌の勢力図が大きく変化している。特に物理分野では米国の雑誌への一極集中に拍車がかかっている。この流れの中で我々の先輩が長年苦勞を重ねながら育て上げて来た日本から発行されている物理の英文ジャーナルが最近苦戦している。これまで、我が国で発祥した歴史的な研究の多くがこれらの雑誌を通じて報じられて来た。比較的新しい例では、高温超伝導の研究や青色発光ダイオードの研究がある。研究の立ち上がり時期の重要な結果のほとんどが、JJAP誌 (Japanese Journal of Applied Physics)



やJPSJ誌 (Journal of the Physical Society of Japan) に掲載され、世界中の研究者が注目した。その結果これらの雑誌は物理学や応用物理学の分野では世界的に認知される雑誌となっ

ている。欧米の雑誌とはひと味違った趣があり (エキゾチックな英文の使い方も手伝って?)、日本の物理学の文化を感じるという海外のファンもいる。日本物理学会と応用物理学会は、これらの雑誌の国際競争力が急速に衰えることを懸念して、その電子化に取り組むことを決め、私もその事業にここ

数年関わってきた。Webでの即時全文公開などを実現してきたが、購読者数、論文数共に漸減傾向がなかなか止まらない状況である。

科学研究の目的は、実験や理論によって新しい知見を探り当てることである。その成果は論文を通して公開され、それをもとに結果の再現性が研究者によって検証され、その意義が評価される。研究活動は人類共有の知識データベースの構築作業であり、その出口に学術論文がある。排他的優先権確保を目的とする特許とは違い、きわめてパブリックなものである。論文を通じて知識データベースの構築に貢献し、それを学問として体系化していくという作業がパブリックなものであるからこそ、我々の研究教育活動は広く支持され得るのだ。日本が国際社会で敬愛されるような真の科学技術立国となるためには、研究成果をどんどん上げてデータベースのコンテンツを提供するだけで十分なのだろうか。その先端研究の議論を戦わす舞台を世界に向けて提供することで真のリーダーシップを発揮する必要がある。その舞台から日本独自の独創研究を世界にアピールするというのが理想だ。そのためには、国産の学術ジャーナルの衰退は大きな後退であり、なんとかくい止めなければいけない。

(大学院工学系研究科 五神真)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

◇広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL：<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

〔訂正〕

「学内広報」No1249（2002. 11. 13）23頁及びNo1250（2002. 11. 27）16頁の記事で、「館 住」と「館 璋」は「館 璋」の間違いでした。訂正してお詫びいたします。



小柴昌俊 東京大学名誉教授 ノーベル物理学賞受賞記念学術講演会



平成 15 年 1 月 16 日 (木) 14:00 ~ 15:30

開場: 13:00 | 会場: 東京大学大講堂 (安田講堂) | 参加申込み: 当日会場にて受付 (参加費無料)

講演中継会場: 法文 1 号館 (25 番教室)、法文 2 号館 (31 番教室)
SCS 配信会場: 教養学部 (900 番教室、13 号館 2・3 階 1323 番教室)
インターネット配信 (学内向け) URL: <http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/announce/2003/01/koshiba.html>

講演会	挨拶	佐々木 毅	東京大学総長
	来賓挨拶	蓮實 重彦	前東京大学総長
	講演	小柴 昌俊	東京大学名誉教授
		戸塚 洋二	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所物理第三研究系教授

問い合わせ: 東京大学総務部総務課 Tel. 03 - 3815 - 6363 主催: 東京大学

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1253 2003年 1 月 8 日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷 7 丁目 3 番 1 号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>